



不二越強制連行とは？

10代少女・青年男性を 朝鮮半島から強制連行

(株)不二越は1928年、富山市に創業した工作機械メーカー。戦争中、海軍指定軍需工場として発展した。社史によれば、戦局の悪化に伴う労働力不足を補うため、当時日本の植民地支配下にあった朝鮮半島から「女子勤労挺身隊1,090人、男子報国隊540人、合計1,630人」を動員したという。朝鮮女子勤労挺身隊の動員人数は国内最多。



原告が持っていた
不二越社員手帳



商標「NACHI」の由来

戦中、昭和天皇の「お召艦」だった「那智」が由来。戦後もその名を掲げたまま、世界進出している。

少女たちはなぜ富山へ？



女学校に通えると信じて



一九四四年夏撮影の集合写真(原告所有)

不二越は国民学校を通じて、幼い12～15歳の小学校上級生・卒業生らを「女学校に行ける。お花やミシンも習え、お金も稼げる」などと勧誘した。当時、植民地支配下の「皇民化教育」で、少女たちは自分の名前・民族の言葉も歴史も否定され、日本語を強制されていた。日本人教師の言葉は絶対で、「内鮮一体」「天皇陛下のために命を捧げる」ことが正しいと信じていた。女子の進学が困難な時代に、不二越勤労挺身隊への勧誘はまるで「留学」するような甘言だった。

一緒に活動する仲間 会員・ボランティア募集中



不二越訴訟連絡会は
年4回ニュース発行・学習会(zoomあり)を開いています。
年会費 一口2千円
会費・カンパ 振込先
郵便振替口座番号 00710-7-40188
加入者名 不二越訴訟支援北陸連絡会



不二越訴訟連絡会 連絡先 ブログ

<https://fujisoshio.exblog.jp/>
メール almoni_fujikoshisoshon@yahoo.co.jp
電話・FAX 076-444-1833



富山での生活は？

監獄のような寮生活・空腹・空襲の恐怖

彼女たちを待っていたのは、厳しい軍事教練と重労働だった。粗末な食事でありにもお腹が空き、道端の草を食べた。女学校や習い事の話は、全て嘘だった。「騙された」と気づいた時には、もう戻ることはできなかった。



日本第1次訴訟原告の崔福年さん。機械に指を挟まれ怪我をした。しかし、適切な治療もされず、指を切断されてしまった

原告たちの証言

<女子勤労挺身隊(年月は動員期間)>



柳賛伊さん

1926年生まれ。
1944年6月～1945年7月。
粗末な食事ですいつもひもじく、生理も止まってしまっ
た。
2018年逝去、享年91。

安喜洙さん

1930年生まれ。
1944年6月～1945年7月。
動員中に父親が亡くなったが、「戻っても父親は生き返らない」と、お葬式にも出られなかった。「本当に辛かった」。2022年逝去、享年91。



安喜洙さん(右)と
原告の1人・故崔姫順さん(左)

李今順さん

1931年生まれ。
1945年3月～1945年10月。
仕事が多く、家族にも会いたく
て、友だちとお金も持たず、どこ
に行ったらいいかわからない
まま逃げた。そのくらい幼かっ
た。警察官に見つかり、交番に連
れて行かれ、拳で殴られた。
2023年逝去、享年88。



<男子徴用工>



朴道一さん

1922年生まれ。
1944年8月～1945年10月。
富山に投下されたパンプキン爆弾(模擬原爆)で、左足を負傷した。
2008年逝去、享年86。

原告 金明培さんの訴え

「被害者に謝罪し、賠償するのは当たり前」
「『日韓条約』で解決していない」
「謝罪なき不二越に未来はない」

前年に続き、2025年2月、不二越株主総会に出席した原告・金明培さん(94歳)。質問に立ち、不二越を免罪する「第三者弁済」を拒否し、「あくまでも不二越が賠償すべき」と発言した。不二越韓国内資産差し押さえ訴訟の原告。



裁判中に亡くなったお連れ合い・故林永淑さんの遺志を引き継ぎ、原告として闘う金明培さん。遺影を手に株主総会へ。(不二越富山事業所にて)

なぜ今、戦後補償訴訟？

軍事独裁政権を倒した韓国民主化闘争の勝利から、日本の戦争責任追及へ

解放後、日本の植民地支配と侵略戦争による被害者と、犠牲者の遺族たちは遺族会を作り、互いに支え合ってきた。こうした活動も、軍事政権下では弾圧の対象となった。だが、民主化を求める声はついに軍事政権を倒し(1987年6月抗争)、やっと日本政府・企業の戦争責任を公然と告発する闘いができるようになった。



1987年6月9日、民主化運動中に警察が発射した催涙弾で亡くなった、李韓烈氏の国民葬

徴用工の闘いー第二の独立運動

不二越訴訟原告団は、この訴訟を「植民地支配と闘った民衆闘争の遺志を引き継ぐ『第2の独立運動』」と位置づけた。金沢で処刑された尹奉吉義士と自らの闘いを重ね合わせ、闘いの節目には、尹奉吉義士暗葬の地へ墓参を行った。



尹奉吉義士暗葬地 金沢市野田山
2000年7月、「和解」の報告をする原告団

徴用工裁判の始まりは？

1991年 日本鋼管訴訟

1991年、日本軍「慰安婦」被害者として初めて名乗り出、日本政府を告発した金学順さん。その年、金景錫さんは手書きの訴状を携え、日本鋼管を相手に、拷問による障害の賠償と謝罪を求める訴えを起こした(1999年4月、東京高裁で和解)。

彼は日本鋼管に徴用され、ストライキの首謀者とみなされて拷問を受けた。兄の身代わりだったが、その兄も北海道の炭鉱に徴用され、遺骨も返ってこなかった。その遺骨を探すとともに、北海道から沖縄まで各地の韓国人犠牲者の遺骨を収集し、春川に納骨堂を建て慰霊するなど、戦後補償運動に取り組んだ。

金景錫さん 神奈川シティユニオン・韓国人労働者が駆け付ける



尹奉吉さんは何をした人？

独立運動家。韓国では安重根・李奉昌・白貞基と並び、義士と称えられている



義挙に先立ち、金九先生と記念撮影

「上海義挙」

1932年4月29日、上海で行われた、日本軍の上海「事変」勝利と「天長節」(天皇誕生日)を祝う集会で尹奉吉が爆弾を投擲、上海派遣軍司令官らが死傷した。この闘いは朝鮮の人々を鼓舞し、日本帝国主義に抗していた中国の人々を激励した。

不二越訴訟 略年表

1992年9月	＜第一次訴訟＞ 原告団長 金景錫さん ※1991年日本鋼管訴訟原告 原告3名(女子勤労挺身隊2名、徴用工1名)
1996年7月	北陸三県の「在日」を中心に「植民地支配・強制連行・戦後を考える連絡会」結成 富山地裁棄却判決 高裁棄却判決
1998年12月	最高裁「和解」
2000年7月	最高裁「和解」



不二越正門前でのハンスト行動(1998年)

なぜ金沢に暗葬地があるの？

金沢で処刑され、遺体は秘密裏に埋められた

上海派遣軍の主力部隊・第9師団の司令部は金沢にあった。日本陸軍は尹奉吉が英雄になることを恐れ、金沢で処刑し、遺体を秘密裏に石川県戦没者墓苑(金沢市野田山)のゴミ捨て場に埋めた(暗葬)。戦後、「在日」の努力によって遺体が発見され、1992年、「尹奉吉義士暗葬之地」として記憶する墓碑が建立された。



尹奉吉義士の殉国直後の写真



1946年3月、尹奉吉義士の遺骸発掘の写真

現在、右翼が「墓碑」の撤去を掲げて金沢市を相手に訴訟を起こし、ヘイト街宣を繰り返している。



2002年3月	「第二次不二越強制連行・強制労働訴訟を支援する北陸連絡会」結成
2003年4月	＜第二次訴訟＞ 原告23名(女子勤労挺身隊22名、徴用工1名)
2007年9月	富山地裁棄却判決
2010年3月	高裁棄却判決
2011年10月	最高裁「棄却」決定
2013年2月	韓国第1次訴訟提訴(原告 女子勤労挺身隊31名)。第2次訴訟(原告5名) 第3次訴訟(原告1名)
2017年3月	地裁・高裁段階ですべて原告勝訴
2018年10月	大法院判決 (日本製鉄訴訟・三菱広島(11月)・名古屋三菱訴訟で原告勝訴判決)
2024年1月	25日、不二越訴訟で大法院判決 植民地支配は「不法」とし、不二越に賠償命令 不二越は賠償拒否 現在、韓国の不二越資産差し押さえ・現金化を求める裁判が、日本外務省の妨害で止まったまま

江華島侵略から150年 日韓条約60年、「戦後」80年 植民地主義と対決する運動を！

日韓条約の締結は1965年、民主化を求め条約に反対する韓国の人々への、血の弾圧によって強行された。アメリカのベトナム戦争に日本と韓国を参戦させるためであり、日本の戦争責任は問われなかった。

それから60年。徴用工被害者らの30年に及ぶ闘いは、ついに韓国大法院での勝利を勝ち取った。しかし、日米韓軍事同盟という安保政策を優先する日韓両政府によって、賠償は実現していない。

「強制連行の事実を認めよ。謝罪・賠償せよ」。原告たちの訴えは、過ぎ去った過去の話ではない。被害者たちの多くは亡くなっているが、彼らは、生きている私たちを鼓舞激励し続けている。

植民地主義との対決はまさに今、世界の課題だ。アジア・世界の人々と共に歩んでいこう。

＜富山での集会予定＞

8/24 ヘイト政治の台頭を許すな! 8.24 集会

10月(日程調整中) 講師 安田浩一さん
(ノンフィクションライター)